

# 小学生がおこなう向社会的行動

## —向社会的行動の対象と種類に関する自由記述の予備的検討—

齋藤 信<sup>1</sup>, 杉山 佳菜子<sup>1</sup>

### 要旨

本研究では、小学生がおこなう向社会的行動について検討した。小学2年生・小学4年生・小学6年生合計241名に、向社会的行動に関する自由記述を求めた。小学生の向社会的行動の対象となる相手と種類について分析したところ、学年の上昇に伴う発達が見られた。本研究から、小学生の向社会的行動についての発達の傾向が見られることと、今後の研究の重要性が示唆された。

キーワード 小学生 向社会的行動 自由記述

### 1. 問題と目的

向社会的行動 (prosocial behavior) は、「他の個人や集団を助けようとしたり、こうした人々のためになることをしようとしてなされた自主的な行為」とされている (Eisenberg, 1982; Eisenberg & Mussen, 1989)。行動の例としては、寛容さ、同情を表す、持ち物を分ける、慈善団体への寄付、不平等や不正を社会から追放することによって福祉を高めようとする活動への参加などが挙げられる (宗方, 1992)。

向社会的行動は、道徳性における肯定的な側面として位置づけられており、道徳性と関連づけた研究が行われてきた。道徳性には、①情緒的側面 (感情的側面) ②行動的側面 ③認知的側面 があり (山岸, 1976)、向社会的行動についても、これら3側面に関する研究が積み重ねられている。

海外における研究は、Eisenbergらの一連の研究を基点としている (例えば, Eisenberg, 1982; Eisenberg & Mussen, 1989; 詳細は宗方, 1992を参照)。それらによると、向社会的道徳判断は、向社会的な行動が要求される状況でなされる道徳的な理由づけとされており (Eisenberg, 1982)、これは向社会的行動における認知的な側面である。さらに Eisenberg (1986) は、向社会的道徳判断の発達を示している。それによると、向社会的道徳判断の発達には、レベル1 (快樂主義的・自己焦点的指向; おおよその年齢は、小学校入学前および小学校低学年) からレベル5 (強く内面化された段階; 中・高校生の少数だけであり、小学校にはまったくみられない) までがあり、道徳性に沿った発達が起きるとしている (宗方, 1992)。

こうした Eisenbergらの研究を受けて、向社会的行動の研究は、日本においても積み重ねられてきた。例えば、菊池 (1984) は、海外・国内の向社会的行動に関する研究を展望をした上で、向社会的行動が生起する過程のモデル、向社会的行動が生起するための様々な要因について、述べている。また宗方・二宮 (1985)、Ninomiya (1987) は、幼児期

---

<sup>1</sup> こども教育学部幼児教育学専攻

から青年期後期に至る日本の向社会的道德判断の発達を検証して、前述の Eisenberg(1986) による向社会的道德判断の発達が、日本においてもあてはまる可能性を指摘している。

さらに、これらの研究を受けて、向社会的行動と関連する様々な要因の検討も行われている。桜井(1986)、渡辺・衛藤(1990)は、いずれも小学校高学年を対象に、向社会的行動と共感性との関連を検討している。また伊藤(2004)は小学校低学年、清水(2010)は幼稚園児から小学校低学年の児童を対象に、様々な状況に対する認知が向社会的行動にどう影響するのかを検討している。近年においても、小学生・中学生における向社会的行動と共感性・攻撃行動の関連(村上・西村・櫻井, 2014)、同じく小学生・中学生における対象別(家族・友だち・見知らぬ人)の向社会的行動(村上・西村・櫻井, 2016)などの研究が行われている。

向社会的行動の発達は、教育においても重要なテーマである。向社会的行動は、他者への思いやり、親切的行動と同義・類似の概念として扱われ、道德教育のみならず、教育場面全体に関わる重要なものとされている。こうしたことから、初等教育の時期である、児童期の向社会的行動を検証することには大きな意義があり、前述のような研究が蓄積されていると考えられる。

本研究では、小学生の向社会的行動についての、自由記述を分析する。向社会的行動の自由記述を扱った研究としては、以下のものが挙げられる。岩立(1991)は、小学校高学年の児童に、向社会的行動場面で向社会的行動をおこなう理由(帰属要因)の自由記述を求めて、内的要因・外的要因・関係的要因といった観点からの分析を行っている。また、山村・中谷(2012)は、小学校高学年の児童による、「最近あなたが見かけた『思いやりがあるなあ』と思った友だちの行動」の自由記述から、5つの「大カテゴリー」を抽出している。

本研究は、小学生自身の立場から見た、「だれかを手伝っている」「だれかを助けたりする」行動に焦点を当てる。本研究では、小学生の自由記述から、自身がおこなっている、向社会的行動の対象となった相手と、行動の種類を明らかにすることを目的とする。小学生が誰に対するどのような行動を向社会的行動と考えているのか、さらに、発達の違いが見られるかどうかを検討することで、児童期の発達と教育に関する示唆が得られるものと考えられる。なお本研究は、参加者全体および調査内容の一部を抽出したもので、研究全体の中での予備的検討と位置づけられる。

## 2. 方法

### 2.1. 調査協力者と調査時期

調査協力者は、三重県内 A 市の小学生であった。小学 2 年生 77 名(男子 43 名, 女子 34 名), 小学 4 年生 83 名(男子 46 名, 女子 37 名), 小学 6 年生 81 名(男子 47 名, 女子 34 名)の合計 241 名を検討の対象とした(表 1)。調査時期は、2019 年 9 月-10 月であった。

表1 調査協力者の構成

学年	男子	女子	合計
小学2年生	43	34	77
小学4年生	46	37	83
小学6年生	47	34	81
合計	136	105	241

注) 数字は人数を示す。

## 2.2. 調査内容

「誰かを手伝ったり助けたりすることについてのアンケート」の名称で、調査用紙を作成した。なお小学2年生と小学4年生・小学6年生で漢字・平仮名・ふり仮名の使用および質問内容を適宜区別して作成した。

### ①フェイスシート

学年・組・出席番号・氏名・性別の記入を求めた。

### ②自由記述

向社会的行動の対象と種類について、自由記述を求めた。小学2年生については、「さいきん、〇〇さんは、ともだちに 本を かしてあげました。□□さんは、お母さんがなくした めがねを さがしてあげました。みなさんは だれかを 手伝ったり、助けたりしましたか。したことを 1つ教えてください。」、小学4年生・小学6年生については、「あなたがした『誰かを手伝ったり、助けたりしたこと』を教えてください。(中略)たくさん思いついた人はたくさん書いてください。」をそれぞれ、質問文とした。

### (3) 調査手続き

調査は小学校の各クラス担任に依頼して、道徳の授業などの時間を想定して実施してもらったようにした。

## 3. 結果

### 3.1. 向社会的行動の対象となった相手

向社会的行動の対象となった相手を表2に示す。回答の自由記述の分類は、著者2名がおこなった。【その他】には、各学年で割合が非常に少なかった相手、分類できなかった相手を入れることにした。

表2 向社会的行動の対象となった相手

2年生			4年生			6年生		
相手	度数	割合(%)	相手	度数	割合(%)	相手	度数	割合(%)
母親	46	55.4%	母親	45	34.1%	母親	66	34.4%
父親	13	15.7%	友人	40	30.3%	友人	65	33.9%
友人	8	9.6%	きょうだい	10	7.6%	きょうだい	14	7.3%
きょうだい	5	6.0%	父親	8	6.1%	父親	8	4.2%
先生	2	2.4%	下級生	7	5.3%	下級生	5	2.6%
その他	9	10.8%	その他	22	16.7%	その他	34	17.7%
合計	83	100.0%	合計	132	100.0%	合計	192	100.0%

注) 度数はカテゴリーに分類されたものの延べ数。自由記述の分類は著者2名がおこなった。

まず3学年を通して最も割合が大きかった相手は【母親】であった。【母親】の割合は、2年生では55.4%、4年生では34.1%、6年生では34.4%で、いずれも各学年の中での1位であった。

次に4年生・6年生においては、2年生と比べて【友人】の割合が大きく上昇していた。【友人】の割合は、2年生では9.6%で3位であったが、4年生では30.3%で2位、6年生では33.9%で2位であった。

また割合は小さいが、4年生・6年生に、【下級生】が出現していた。【下級生】の割合は、4年生では5.3%で5位、6年生では2.6%で5位であった。

以上のことから、向社会的行動の対象となった相手に関して、①3学年を通して【母親】が最も割合が大きいこと ②学年が上がるにつれて【友人】の割合が上昇すること ③学年が上がるにつれて【下級生】が出現すること の可能性が示された。

### 3.2. 向社会的行動の種類

向社会的行動の種類を表3に示す。回答の自由記述の分類は、著者2名がおこなった。

以下、分類について概説する。【家事】には食事や洗濯など日常生活に必要なこと、【世話・ケア】には年少者の世話や年長者へのいたわり、【さがしもの】には(落し物・忘れ物を含む)その場にはないものを一緒に探したり持っていくこと、【作業・動作】には何かを運んだり配布したりするときの手伝い、【旅行・外出】にはこれらの際の準備の手伝い、【教える・助言】はクラスメイトに授業の学習内容を教えること、【提供・貸出】は物品や機会などをあげたり貸したりすること などを中心に分類した。【その他】には、各学年で割合が非常に少なかった行動の種類、分類できなかった行動の種類を入れることにした。

表3 向社会的行動の種類

2年生			4年生			6年生		
種類	度数	割合(%)	種類	度数	割合(%)	種類	度数	割合(%)
家事	49	59.0%	家事	62	47.0%	家事	87	45.3%
世話・ケア	11	13.3%	作業・動作	26	19.7%	教える・助言	30	15.6%
さがしもの	7	8.4%	世話・ケア	17	12.9%	作業・動作	30	15.6%
作業・動作	6	7.2%	教える・助言	10	7.6%	世話・ケア	18	9.4%
旅行・外出	4	4.8%	提供・貸し出し	6	4.5%	提供・貸し出し	16	8.3%
その他	6	7.2%	その他	11	8.3%	その他	11	5.7%
合計	83	100.0%	合計	132	100.0%	合計	192	100.0%

注) 度数はカテゴリーに分類されたものの延べ数。自由記述の分類は著者2名がおこなった。

まず3学年を通して最も割合が大きかったのは【家事】であった。【家事】の割合は、2年生では59.0%、4年生では47.0%、6年生では45.3%でいずれも各学年の中で1位であった。

次に【世話・ケア】の割合について、2年生では13.3%で2位、4年生では12.9%で3位、6年生では9.4%で4位であった。

また4年生において出現した【教える・助言】は、6年生になって割合がより大きくなっていった。【教える・助言】の割合は、4年生では7.6%で4位、6年生では15.6%で2位であった。

以上のことから、向社会的行動の種類に関して、①3学年を通して【家事】が最も割合が大きいこと ②【世話・ケア】は3学年を通して上位4位以内にあること ③学年が上がるにつれて【教える・助言】が出現して割合が上昇することの可能性が示された。

## 4. 考察

### 4.1. 向社会的行動の対象となった相手

向社会的行動の対象となった相手として、3学年を通して、最も割合が大きかったのは母親であった。ここから小学生が最も手伝ったり助けたりしている相手は母親であり、日常生活における母親との関わりの多さと深さが考えられる。このようなことから向社会的行動の発達には、やはり母親の関わり方や働きかけが重要となる可能性が示唆される。

一方、学年が上がるにつれて、向社会的行動の対象となる相手として、友人の割合が上昇していった。ここから小学生の日常生活が家庭から学校へ、母親を中心とした家族から学校を中心とした友人へと広がっていくことが示唆される。

さらに学年が上がるにつれて、向社会的行動の対象として、下級生が現れることから、年少の立場との関わりの機会とともに、手伝い・援助をおこなうようになっていることが推測される。ここから学校教育において、上級生・下級生の関わりの場を設けることは、向社会的行動の発達に寄与する意義があると考えられる。

## 4.2. 向社会的行動の種類

向社会的行動の種類として、3 学年を通して、最も割合が大きかったのは家事であった。

(1) で述べた通り、小学生が最も手伝ったり助けたりしている相手は母親であり、母親の家事の手伝い・手助けが小学生にとっての向社会的行動の中心であることがうかがえる。こうしたことから、家庭における母親の手伝いから向社会的行動の発達が始まる可能性がある。

【世話・ケア】の種類は、3.2.で述べた通り、年少者の世話や年長者へのいたわりであり、向社会的行動の典型的なものとも考えられる。2 年生では年下のきょうだいの世話などが挙げられていた。6 年生になると割合が下降しているが、これについては以下の点からも考えられる。

学年が上がるにつれて、向社会的行動の種類として、割合が大きくなっているのが、【教える・助言】の種類であり、3.2.で述べた通り、クラスメイトに授業の学習内容を教えることなどが中心の分類である。ここから学年が上がるにつれて、家族から学校への人間関係の移行および友人関係の深まり・広がりが起こり、それとともに、他者に学習を教えることができるような学習面・行動面の発達が起こることが見て取れる。こうしたことから、学校教育において、生徒同士が教え合うような場面を設定することは、向社会的行動の発達にも肯定的な影響があることが考えられる。

## 4.3. まとめと今後の方向性

本研究では、小学生の向社会的行動について、小学 2 年生・小学 4 年生・小学 6 年生に焦点を当てて、向社会的行動の対象となる相手および向社会的行動の種類についての検討を行った。結果から学年の上昇に伴う変化が見られ、小学生の向社会的行動に発達の側面が見られる可能性が示唆された。今後は、より精緻な分析と教育への示唆について検討する必要があると考えられる。

## 引用文献

Eisenberg, N (1982). *The development of prosocial behavior*. New York: Academic Press.

Eisenberg, N (1986). *Altruistic emotion, cognition, and behavior*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Inc.

Eisenberg, N., & Mussen, P. (1989). *The roots of prosocial behavior in children*. Cambridge: Cambridge University Press.

伊藤 順子 (2004) . 向社会性についての認知はいかに行動に影響を与えるか —価値観・効力感の観点から— 発達心理学研究, 15, 162-171.

岩立 京子 (1991) . 児童の向社会的行動場面における帰属要因の自由記述による検討 東京学芸大学紀要 第 1 部門 教育科学, 42, 23-31.

菊池 章夫 (1984) . 向社会的行動の発達 教育心理学年報, 23, 118-127.

宗方 比佐子 (1992) . 向社会性理論—アイゼンバーガー— 日本道德性心理学研究会 (編著) 道德性心理学—道德教育のための心理学— (pp. 249-262) 北大路書房

宗方 比佐子・二宮 克美 (1985) . プロソーシャルな道德判断の発達 教育心理学研究, 33, 157-164.

- 村上 達也・西村 多久磨・櫻井 茂男 (2014) . 小中学生における共感性と向社会的行動および攻撃行動の関連—子ども用認知・感情共感性尺度の信頼性・妥当性の検討— 発達心理学研究, 25, 399-411.
- 村上 達也・西村 多久磨・櫻井 茂男 (2016) . 家族, 友だち, 見知らぬ人に対する向社会的行動—対象別向社会的行動尺度の作成— 教育心理学研究, 64, 156-169.
- Ninomiya, K. (1987). Prosocial moral judgement in Japanese adolescents. Paper presented at the 9th biennial meeting of the ISSBD, Tokyo, Japan.
- 齋藤 信・杉山 佳菜子 (2020) . 小学生がおこなう向社会的行動 (2) —向社会的行動の対象と種類に関する自由記述の検討— 日本発達心理学会第 31 回大会発表論文集, ポスター発表 (PS4-5)
- 櫻井 茂男 (1986) . 児童における共感と向社会的行動の関係 教育心理学研究, 34, 342-344.
- 清水 由紀 (2010) . 幼児・児童は危険回避行動と向社会的行動のいずれを優先させるか—安全教育のデザインのための基礎的研究— 発達心理学研究, 21, 322-331.
- 杉山 佳菜子・齋藤 信 (2020) . 小学生がおこなう向社会的行動 (1) —向社会的行動の頻度と文化差の検討— 日本発達心理学会第 31 回大会論文集, ポスター発表 (PS4-4)
- 渡辺 弥生・衛藤 真子 (1990) . 児童の共感性及び他者の統制可能性が向社会的行動に及ぼす影響 教育心理学研究, 38, 151-156.
- 山岸 明子 (1976) . 道徳判断の発達 教育心理学研究, 24, 97-106.
- 山村 麻予・中谷 素之 (2012) . 児童が考える「思いやり」行動とはどのような行動か—小学生を対象にした自由記述調査から— 大阪大学教育学年報, 17, 31-44.

#### 付記

- 本研究は、以下の学会発表と関連・共通しています。
 

杉山 佳菜子・齋藤 信 (2020) . 小学生がおこなう向社会的行動 (1) —向社会的行動の頻度と文化差の検討— 日本発達心理学会第 31 回大会論文集, ポスター発表 (PS4-4)

齋藤 信・杉山 佳菜子 (2020) . 小学生がおこなう向社会的行動 (2) —向社会的行動の対象と種類に関する自由記述の検討— 日本発達心理学会第 31 回大会発表論文集, ポスター発表 (PS4-5)
- 本研究にご協力頂いた、小学校の先生方ならびに児童・生徒の皆様に、厚く御礼申し上げます。

## **Prosocial behaviors of elementary school students —Pre-analysis based on free description questionnaire about objects and categories of prosocial behaviors—**

**Makoto SAITOH, Kanako SUGIYAMA**